

## 『語り』『経験』『意味』を捉える

### － 質的研究法による多様なアプローチ －

「自分の研究では、どの方法、手法を使えばいいのだろうか？」

研究の途中で必ず悩むことの一つに研究方法の選択があります。今回の研修は、こうした悩みを抱える方の一助になればという思いから企画しました。

研究は、自分が立てたリサーチクエスションへの解を導き出すために、『語り』や『経験』そしてその『意味』を的確に捉えるために、最適な分析方法を用いることが不可欠です。インタビューデータや観察記録等の質的データの分析に用いる方法には様々なものがあります。どの方法を用いるかは、各方法の特徴を十分に理解する必要があります。

本研修は、実際の研究事例を紹介しながら、その事例で用いた研究法に関するイメージを掴み、理解を深めてもらえたらと思います。

報告する研究事例は、当研究会のメンバーが取り組んできたものです。研究がまとまるまでのメイキングも含めて質疑しながら、研究方法を学べるまたとない機会となることでしょう。自分の研究でどんな方法を採用すればよいか迷われている方、テーマはあるけどどんな結末(まとめ)になるのかイメージができないという方、こんな疑問を持っているけど研究になるのだろうかと悩んでおられる方には、見通しが持てる、そんな研修になるかと思えます。質的研究に興味・関心をお持ちの方の参加をお待ちしております。

日本福祉大学質的研究会は大学院修士課程に入学し、「実践」オンリーから「研究」の道に分け入ったゼミ生が立ち上げ、自分たちの研究の成果を、質的研究に興味を持つ後輩や仲間たちに伝承する「教育」の3要素を、糾える縄のように組み込んだ研究体です。発足から10数年がたち、代表を務めてきた私も習熟したメンバーにあとを託せます。

今回は初心に戻り「大学院夏季ゼミナール」で異なった手法をショーケースとしてお見せした最初のプログラムを、2日間に拡大して深めていきます。どうぞ気になるもののみでも参加していただき、知的探求を楽しみながら、今後の研究や実践にお役立てください。

日本福祉大学質的研究会 代表 田中千枝子

日時：2026年3月7日(土) 13:00~17:00  
8日(日) 9:00~12:00

場所：文京総合福祉センター 視聴覚室(4階)  
(東京都文京区小日向2丁目16-15)  
アクセス:東京メトロ有楽町線「江戸川橋」駅3番出口より徒歩4分

定員：会場；80名 オンライン；80名  
< いずれも先着順。定員となり次第締め切らせていただきます。>

参加費：一般:10,000円 大学生・大学院生:8,000円

プログラム：裏面参照

〈問い合わせ先〉日本福祉大学 研究課  
E-mail: kakidai\_entry@ml.n-fukushi.ac.jp

## プログラム

	時間	演者	研究テーマ/研究手法
3/7(土)	13:00~13:05	開会あいさつ	
	13:05~14:50	鈴木 俊文 (静岡県立大学)	質的研究のナラティブ性 -調査としての/分析としての/成果としてのナラティブ-
	14:50~15:00	休憩	
	15:00~15:55	牛場 裕治 (福井県立大学)	精神疾患のある親と暮らす子どもへのソーシャルワーク支援 -レビュー論文作成に用いた内容分析の手法-
	16:00~16:55	塩満 卓 (佛教大学)	統合失調症ケアの脱家族化実践モデルの構築 -本人・親・精神保健福祉士へのインタビュー調査への分析から- TEMとM-GTAのトライアングレーション
	16:55~17:00	翌日のアナウンス及び懇親会の案内	
3/8(日)	9:00~9:55	坂野 剛崇 (大阪経済大学)	心理実習・心理実践実習における大学院生のスーパービジョン体験 -相互インタビューの質的分析による省察- M-GTA
	10:00~10:55	山内 哲也 (武蔵野会)	介護職におけるHIV陽性者受入れ意向の関連構造と促進要因 -U=U情報が受入れ判断に及ぼす影響とその活用可能性- 混合研究(量:SEM×質:質的記述分析)
	11:00~11:55	田中千枝子 (日本福祉大学)	講演「社会福祉における実践/研究/教育の往還」
	11:55~12:00	事務連絡	

## 演者紹介

鈴木 俊文 静岡県立大学短期大学部 社会福祉学科 教授

『事例から学ぶDWATによる災害福祉支援-避難所活動とその準備-』(編著:みらい, 2025)

『介護福祉学の構築に向けて-「介護福祉学」と「質的研究」-』(単著:介護福祉学31(2), 2024)

牛場 裕治 福井県立大学 看護福祉学部社会福祉学科 助教

『精神疾患のある親と暮らす子どもの支援-ソーシャルワークの文献検討-』(単著:東海公衆衛生雑誌13(2)2026)

『ヤングケアラー支援における困難と連携体制構築の課題-教育・児童福祉分野支援者への質問紙調査より-』(共著:鈴鹿医療科学大学紀要31, 2025)

塩満 卓 佛教大学 社会福祉学部社会福祉学科 教授

『精神医療の特異な論理-なぜ国家賠償請求訴訟か?』(編著:批評, 2025)

『ケアの脱家族化-統合失調症者と親双方の自律を支援するソーシャルワーク』(単著:法律文化社, 2025)

坂野 剛崇 大阪経済大学 人間科学部人間科学科 教授 ・ NPO 法人スキマサポートセンター 理事

『非行への関与と離脱を巡る自己変容プロセス-非行経験男性のライフストーリーへの発生の三層モデル(TLMG)によるアプローチ』(単著:司法福祉学研究24, 2024)

『非行への関与と離脱を巡る経験に関する一考察-非行経験のある女性の語りの現象学的アプローチによる記述-』(単著:大阪経大論集74(6), 2024)

山内 哲也 社会福祉法人武蔵野会 事業企画室長

エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究(厚労省 エイズ対策政策研究事業)

分担研究 HIV 陽性者の介護におけるの受け入れ課題と対策に関する研究報告(2024)

田中 千枝子 日本福祉大学福祉社会開発研究所研究フェロー

『社会福祉・介護福祉の質的研究法-実践者のための現場研究』

編集代表/日本福祉大学大学院質的研究会編集(中央法規出版, 2013)

以上